

Aさん

学校名: Universidad Nacional Autonoma de Mexico (UNAM:メキシコ国立自治大学)

専攻: 哲文学部

課程: 大学院ラテンアメリカ研究コース(文学・文化学) / 交換留学

留学期間: 2008年8月～2009年6月

留学の動機

メキシコには学部生の時に半年間滞在したことがありました。最初の半分の期間は語学学校に通い、残り半分の期間は国内や周辺の国を旅行するような生活でしたが、メキシコの魅力を存分に味わうことができました。そのときの経験から、中南米諸国のことをより深く知りたいと思い、日本の大学院に進学しました。専攻はスペイン語圏の文学・文化研究です。メキシコは大学や研究機関が多く、奨学金制度も充実している上に物価も比較的安いので、学生の私にとって魅力的な場所でした。

留学した国や学校を選んだ理由と、留学前の準備についてこれから留学する人に伝えたいこと

メキシコでは、哲文学部と政治・社会学部にまたがったラテンアメリカ研究コースとよばれるコースに在籍しています。日本にいた際に何冊か目を通した本がここから出版されていたことや、カリキュラムが面白そうだったというのが同コースを選択した理由です。ただ、指導教官を決めずに大学に来てしまい、この点は唯一後悔しています。はっきりとした留学の目的を持つに越したことはありません。とはいえ、留學生活にはおおむね満足しています。

学校での授業や学生生活の紹介、また日常生活についての紹介

選択したコースにはラテンアメリカ諸国からの留学生が沢山いました。そのこともあってか、雰囲気もオープンで、アジア人である私も比較的抵抗なく仲間に入ることができました。授業の開始前、終了後、週末など、彼らと楽しく有意義な時間が過ごせました。

肝心の授業ですが、スペイン語を母国語としない留学生にとってはそれなりに大変です。課題をこなしたり発表の準備をしたりするために、家や図書館にこもらねばならないこともしばしばありました。ただ、こちらが真剣に準備をすれば、周囲はそれなりの優しさや誠意のある反応を示してくれるので、結果的に有意義な学びの時間をもつことができたと思います。

留学後の進路について

勉学を積むか、社会に出るかを定めるつもりでこちらにやってきたのですが、残念ながらまだその答えは出ていません。ただ、こちらに来てある程度現地の状況を知ることができましたし、数え切れない新たな発見がありましたので、修士論文の作成のための貴重な経験にはなりました。論文を書き上げることが当面の目標になりそうです。

メキシコの魅力と後輩へのアドバイス

メキシコは非常に包容力のある場所だと思います。大学はおおむね柔軟に物事を運んでくれますし、教官や学生も困ったときには親切に対応してくれることが多いでしょう。なにより、キャンパスにはゆったりとした時間が流れているように感じられます。一方、メキシコ・シティは世界でも指折りの巨大都市です。中心街には、日本ではあまり知られていない刺激と喧騒に満ちた空間が広がっています。勉学と生活のどちらに軸足を置くにせよ、きっと有意義な時間が過ごせると思います。

自分の軸をしっかり持って、豊かな留学生活を送ってください。